

# 全国学力・学習状況調査

嘉穂小学校

## 1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期目標・指標】

標準化得点 国語A・Bにおいて100以上 算数A102以上 算数B100以上

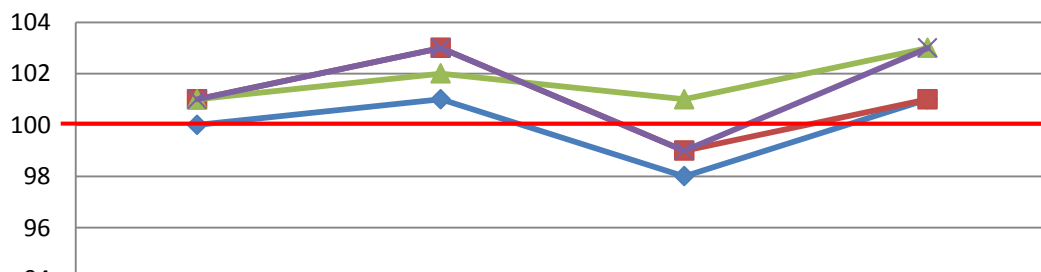
## 3.指標に向けての取組

- 指導方法の工夫(算数科のすべての単元における、T・T授業の実施)
- 学力調査問題、活用力診断テスト教材集、県学力調査フォローアップシート、個人・学級アシストシートの活用
- 補充学習(単元テスト70点未満児童の再テスト、教師3～5名体制による補充・朝の活動の実施)
- 家庭との連携による家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100とした標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	101	101	103	103
嘉麻市	98	98	99	98
全国	100	100	100	100

## 推移



	26年実施	27年実施	28年実施	29年実施
◆ 国語A	100	101	98	101
■ 国語B	101	103	99	101
▲ 算数A	101	102	101	103
× 算数B	101	103	99	103

## 5.各学校における分析

どちらの教科においても、全国平均及び短期指標を上回ることができ、これまでの取り組みの成果が表れたものとする。しかし、B問題の結果から以下のような課題も明らかになった。

### 【国語科】

- 領域別にみると「話すこと・聞くこと」の正答率71.8%に対し、「読むこと」56.4%と15%以上の開きがあった。
- 問題形式では、「選択式」の正答率70.8%に対し「記述式」の正答率51.3%であった。選択式の正答率が高くなったことで、記述式とのポイント差が昨年度より大きくなった。正答率の低かった問題の共通点は変わらず、条件付き作文であることであり、条件に合った文章が書けていないことが課題であると言える。

### 【算数科】

- 評価の観点別に見ると「数学的な考え方」の正答率が53.6%と例年より10ポイント以上高くなっているのに対し「知識・理解」の正答率が50%と15ポイントほど低くなっている。
- 「記述式」の正答率は40.5%と例年と比べ高くなっているが、問題により偏りがあった。今後とも表現力や思考力を育てる取り組みを充実させる必要がある。

## 6.各学校における今後の取組

### 【検証改善サイクルの実施】

○ 国語科A問題で特に正答率の低かった手紙の後付の問題と同音異義語の問題について、朝の活動において複数体制で補充を行う。

### 【日常の授業や学校生活における取り組み】

- 福岡県教育センターの学力向上チームとの連携を図り、指導方法の工夫を今後も継続する。(算数科のすべての単元における、T・T授業の実施)
- 読みの基礎・基本となる言語事項の取り組みをこれまで同様行っていく。
- 主題研究の日常化を図り、授業に書く活動・交流活動を多く取り入れる。
  - ・自分の考えを理由や根拠を示しながら書き、交流する。
  - ・条件付きの作文を書く。
  - ・式の意味を書き、交流する。
  - ・学習のまとめを自分の言葉で書く。
- 現在の5年生には、今年度の課題への取り組みとともに、県学力調査の結果をもとに、フォローアップシートの活用を行っていく。

### 【家庭との連携】

- 学力テストの結果の説明会を行い、これまでの取り組みとその成果、今後の課題を共有し、家庭学習の習慣化についての協力を求めていく。(家庭学習実施状況アンケートの実施及び家庭学習強化週間等の検討)
- 家庭学習の習慣化(10分×学年+10分)の達成率90%以上を今後も目指していく。
- 土日の10分間読書の取組を推進していく。

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◆ 嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、以下の事項について支援する。

- 学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を実施する。
- 短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

◆ 基礎基本の徹底を図るための環境を整備するために、個に応じた支援に向けて、学習の個別化を促進する教材の選定や提示を行う。

◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進するために、「家庭学習のすすめ」を活用した指導を徹底させるとともに、個に応じた課題の提示を促す。